

**第 2 回蒲田駅周辺地区及び大森駅周辺地区
ランドデザイン策定に係る学識者検討委員会 議事概要**

日 時	平成 21 年 2 月 10 日（火）午後 3 時 10 分～午後 4 時 45 分
会 場	大田区役所 801、802 会議室
出席者 (順不同)	学識者検討委員会メンバー：中井委員長、屋井委員、村木委員、池邊委員 庁内検討委員会メンバー：藤田委員長、荒井委員、大林委員、石井委員、 伊藤委員、安元委員、川野委員、菅委員、小塚 委員、岡田委員、吉田委員、青木委員、黒澤委 員
傍聴者	14 名（アンケート実施）

1. 開会

2. 庁内検討委員会委員、コンサルタントの紹介

3. 配布資料の説明

（コンサルタントより資料を説明）

4. 学識者検討委員会（庁内検討委員会）開催

（議事は中井委員長）

（中井委員長） 前はテーマ別の蒲田の現状と課題、蒲田の持っているポテンシャルと課題を整理して、先生方のご意見をいただいた。まちの将来の方向性に関しては第一印象のコメントをいただいたので、今回はもう少し将来の方向性のあたりを議論させてもらいたいと思う。

（中井委員長） 2 ページの視点で都市基盤のシンボル道路は京急蒲田と JR 蒲田を結ぶ道路のことか。また並木とは何を指しているか。

（事務局） シンボル道路は蒲田駅東西でシンボル道路整備事業で整備した道路、並木は、ぼぷらードや幹線道路（環八、第一京浜）の植樹帯を指している。

（村木委員） 5 ページの分野別の基本方針の具体的な施策は 5 つの分野間で重複するものがあるはず。例えば市街地環境改善の中期的に実現すべき取り組みの「サイン施設等」と、都市基盤施設の整備の早急に対処すべき取り組みの「サイン計画」都市景観の形成の「景観形成」などは、多少の意味合いは違うが、情報提供の意味では同じである。分野ごとに各部局がバラバラに整備をしたら、例えばサインでは整備する部局が異なれば

提供する情報も異なり、結果として見つらいものになる可能性がある。重複する施策は、線で結ぶなど関連を明確にすることも考えた方がよい。

(屋井委員) グランドデザインができた後にどういう役割を担うことになるのかというのを理解してないといけないのだが、1、3 ページあたりの対象範囲について、道路や高架の線路や呑川など軸状のものが境界になりがちだが、その軸が具体的な規制や計画に密接に繋がるものであればきっちり境界を決めたほうがいい。この資料全体を眺めるとグランドデザインはもう少し緩やかな方向性を定めるものだとすると、もう少し境界をぼかしても良いのではないか。例えば呑川も反対側もエリアに入れたほうがいいと思う。第一印象では対象範囲に関してはそう感じる。

(屋井委員) 3 つの中心拠点について、大森、蒲田は良くわかるが、羽田空港周辺とは何を指しているのか。空港そのものか、跡地のことなのか。海老取川を渡ったところまでが入るのか。蒲田も羽田空港に近くて、広い意味では拠点だと思う。蒲田と羽田空港の間の拠点は何を示しているのか。

(藤田庁内検討委員長) 区としては、新しい基本計画では、羽田空港と臨海部を含めた地域を拠点にしていきたいと考えており、それを踏まえている。蒲田、大森のグランドデザインの中でも羽田空港と臨海部を含めた地域を拠点として整備して、まちづくりを進めていくという趣旨である。

(屋井委員) 羽田空港周辺とは、跡地を含めた今後拠点を形成していく地域であるということと、蒲田、大森にとっては羽田空港そのものをにらんだ拠点づくりをしていくという2つの意味があると理解した。臨海部を含んだ周辺部という概念と、空港そのものという概念の両方を羽田空港周辺という表現にしているという考えでいいのか。

(中井委員長) 長期計画と羽田跡地計画をお手伝いした経緯もあるので補足するが、現在、羽田空港の跡地は市街地と切り離されているが、それを区の施設等を含めて新たに拠点として整備したいという思いと、羽田空港の国際ターミナルはあと2年で整備が終わるのでターミナルそのものを拠点にという思いの2層構造になっていると考えている。

(池邊委員) 蒲田は周辺地区の、大森、羽田、品川、川崎等とどのように違うのか。「訪れた人がわくわくするまち」とあるが、誰が何によってわくわくするのかを明確にすべき。このエリアの中での計画は周辺への波及効果も大きい。東西軸を通すとどのようなメリットがあるのか、今までにない何が可能になるのか、なぜ必要なのか。必然性を地域住民・オール大田区の区民に説明できるロジックが必要。駅前広場が不便だということはわかるが、それを整備することでどんなに良くなるのか、それによって訪れる人が

増え、周辺地区の人々も住み続けたいくなるというホップ・ステップ・ジャンプというお話を以前させていただいた。5 ページの「早急に対処すべき取り組み」は弱みや問題になっているネガティブなことの排除だが、これは蒲田特有の問題ではなく、オール大田区、他の都市でも同じだが、それをすることによって、まちの風格づくりなど次のステップが狙えるようになる。まちのコンセプトを出すことは比較的簡単だが、その手順も含めて、なぜわくわくするのか、周辺にどういう影響を与えるのかを明確にした資料作りをして欲しい。

(中井委員) 3 ページの将来都市構造で、軸の意味が良くわからない。JR蒲田駅東西の行き来の不便さを解消するのはわかるが、それがなぜ京急蒲田駅まで行くのか。まちを歩いて楽しんでもらおうという趣旨かもしれないがもう少し説明が必要。歩行者回遊軸とあるが、なぜ回遊するのかのストーリーがないと軸の意味が良くわからない。魅力があれば人は回遊するが、魅力は何なのか説明が必要。工学院と駅までの新しい軸はわかるが、アロマスクエアまでを一本にするにはそのためのストーリーが必要。片柳学園(日本工学院)の活動をアロマスクエアでやるとか。そのあたりを詰めて欲しい。

(藤田庁内検討委員長) 芯になるものを設定することにより、もっと魅力付けができるだろうと考えている。今は解説がないので、一般の方がわかるような工夫をしていきたい。まちの中心を作ることと、それにまつわる要素の魅力付けをすることにより、まちが変化するし、人が集まり栄えると考えている。ただし、その戦略と手順までは書かれていないので説得力がないが、今のご意見を踏まえながら作業を進めていきたい。

(中井委員長) 今日で決めるものではないし、地元の方々の意見を聞いて決めたほうがいいと思うので、宿題として認識しておいて欲しい。

(中井委員長) 5 ページに「多様な主体による協働」とあるが、施策ごとに行政主体のものや事業者主体のものなどがある。全部を協働でくれないものもあるのではないかと。責任を持ち行政がやるべきものも入っていると思う。

(藤田庁内検討委員長) ここはどんな問題とやるべきことがあるかを整理した。施策間で連携すべきものもあり、誰が責任を持つのかを明確にする必要もある。そのような組み立てをした上で、地元にも投げかけていきたいと考えている。そうでないとそれぞれの主体の役割もわからない。この資料をベースに戦略を組み立てていきたい。

(村木委員) 4 ページに訪れた人がわくわくするまち、いつまでも住み続けたいなるまち、人と自然に優しいまちと書いてあるが、蒲田の商業の特性としては、最寄品(注1)と飲食と夜に活気が出る業態があるが、資料ではきれいな言葉が並べられていて、将来何を指すかをもう少し具体的な言葉で書いても良いのではないかと。この3つのフレーズで

蒲田らしさを表現できるのか疑問がある。蒲田らしさをもう少し端的な言葉で出せると良い。

(屋井委員) 蒲田は羽田の玄関口なので、羽田の国際化で新たに訪れた人をターゲットにしてまちづくりをするというのは、ある程度理解できる。現在は素通りする人が圧倒的に多いので、その人たちを引き込むわくわくするような魅力づくりというのはいいと思う。私が引っかけたのは、蒲田に自然はイメージしにくい。他地域の人にアピールする意味では良いが、実現するのは難しそう。人に優しいというのは、バリアフリーとかイメージは出来るが、自然に優しいというのは呑川なのか。目標の一番よりも、もっと難しい感じがする。

(池邊委員) 呑川だけで、四季折々の美しさを味わえさせることはまず無理だ。ただ、呑川は蒲田の一つのアイデンティティであり、蒲田らしさを出せるものだと思う。来街者や蒲田を愛して住んでいる人々がほっとできる憩いの場や広場、緑を含めた美しい景観の提供が出来れば、蒲田の新しい魅力づけやまちの回遊性が生まれると思う。まちのガイドラインにプラスアルファで景観も考えていったらどうか。

(中井委員長) 1番目のフレーズは来街者向けのもの、2番目は住民向け、3番目は空間的なことだと思うが、住民が何を求めているかにダイレクトに答えられるメッセージのほうが良いのではないか。「安らぎとぬくもりに満ちた」では良くわからない。「安全・安心にします」と書いたほうがわかりやすい。安全・安心は住んでいる地域の人には大きな懸念材料の一つだと思う。もう少し直接的な表現にして、それをもって地元の皆さんと議論した方が良い。こういうフレーズでは議論にならない気がする。

(藤田庁内検討委員長) かつて蒲田は男街だった。今の多くのまちは女性をターゲットにしている。蒲田らしさを考えたときに、イメージを変えるべきか否かも含めてどのような切り口で考えていくべきかご意見頂きたい。

(村木委員) 私はイメージは変えなくて良いと考えている。男街を残していくのであればそれも戦略だが、ただそれは役所だけでなく地元も含めて考えるべきこと。男街に特化したとしても子供や女性が来たときに危い、汚いという印象がないようにすることは必要。渋谷センターまちも汚い怖いイメージが強く、改善したいと考えているが代官山のようになろうとは思っていない。それがアイデンティティ。蒲田も他のまちのようにする必要はない。

(池邊委員) まちづくりをする時に、色や匂いは、というイメージを考えることはよくやっている。蒲田は蒲田行進曲というイメージはある。また、私のように新宿区在住の女性としてはユザワヤが集中しているまちというイメージもある。大田区以外の人が蒲田

にどういうイメージを持つのか。今後、多国籍なまちになっていく中で、防犯・安全・安心は重要である。また、買物の利便性の高いこともあり、中心部の外側のマンションにファミリー層が移るかもしれない。そういった人がどういった要因で新しく移り住んでくるのか、逆に蒲田だと来ないということがあれば何が要因なのかを調査を試みると良い。恵比寿でもかつては男街だったが、良いまちに変わり、周辺への大きな波及効果もあった。それは大きな開発があったからでもあるが、蒲田はそういった開発無しに、どういった将来像へ少しづつ近づけていくかを明確にしていく必要がある。蒲田行進曲を知らない世代に蒲田というイメージをどのように印象付けたいかを、地元の人と一緒に探っていく作業をして欲しい。

(屋井委員) いつまでも住み続けたいも重要だが、駅周辺で地価が高い中で庭付き戸建ては不可能であり都市型生活にならざるを得ない。そういった人たちが、いつまでも住み続けるのは厳しい面もあるのではないか。それであれば、ある時期・期間だけ住む人を視野に入れることも必要。「安心して住み続けられる」はわかるが「いつまでも」をコンセプトにあげるとすると、微妙な感じがする。

(中井委員長) 居住形態の実態は把握しているか。

(藤田庁内検討委員長) 古くから住んでいる人や商売をしている人は多い。一部事務所跡に大規模マンションになっているところは新しい人が入ってきているが限定的である。

(中井委員長) 別の区では人口の入れ替わりが激しいため、定住を大きく打ち出すのではなく、人生の一部を過ごしてもらって、そこから移ってからも応援団になってもらうのも良い、区のステータスを上げることにもなるといった議論をしたことがある。蒲田がそうかはわからないが、実態を良く見て、地元の人と議論しながら考えていければ良い。男街、女街という表現はわかりやすいが、店舗業態だけで判断できるものでもない。今の蒲田は特に男街ということではなく、老若男女いろんな人が来ているイメージがある。男、女よりも、来街者が安心して安全に買物をしてもらえるとか、滞在時間を楽しんでもらえるといった視点が重要である。

(伊藤庁内検討委員) 観光プランは「住んでよし訪れてよし」がキーワード。住んでいる住民が輝いているところは人が行って楽しいというのが理論展開。訪れた人がわくわくするまちは、観光の視点からは、やれると考えている。今回の作業部会での担当各課へのヒアリング時には安全と清潔を担保して欲しいとお願いをした。また、まちの成り立ち、記憶を大事にしたランドデザインにすることが重要だと話をした。まちの成り立ちからかけ離れたことをすると、住む人の居心地が悪くなるので住んで良しにならない。安全と清潔は何かしなければと考えている。あとはわかりにくいというのもポイント

だと思う。わくわく感の持たせ方は観光では限界性で表現をしたが、わくわくを実現できる素地は蒲田には十分あると考えている。

(川野庁内検討委員) 呑川はまちづくりの中では非常に大事な空間であり、緑化も含めて、今は都市型河川で下水道の受け皿にもなっているが、大田区のものづくりと大学と行政の力で対策を組んでいきたい。呑川は東西で通行が可能である。今後、観光のまちになる中で回遊性が非常に重要になるので、呑川などの空間もうまく活用したい。蒲田は区民に文化芸術を発信する場所でもある。アプリコや日本工学院自体も映像文化の力を持っており、そういった地域力と連携したまちづくり施策も重要だと考えている。蒲田駅東西は建物の機能更新が必要な地区であり、目標には「安全・安心」といったストレートな表現で区民の皆さんに伝えていく必要があると考えている。緑が少ないが、街路の再整備や建物の機能更新にあわせて屋上緑化などの細工ができると考えている。そういったことを複合的に捉えることも大事だと考えている。

(中井委員長) 緑化の関連で学校のグラウンドの芝生化はどうなっているのか。

(黒澤庁内検討委員) 新宿小学校は芝生化されている。

(中井委員長) 今後も校庭の芝生化を進めていく予定か。

(川野庁内検討委員) 芝生は維持管理に手間とコストがかかる。芝生だけでなく雑草が生えてもいいという取り組みを小学校を統合したこらぼ大森で行っている。今は実験段階でやっているが、今後そういった動きも見ながら進めていくと思う。

(池邊委員) 安くても美しく見える緑化はある。これまでの公共造園では街路樹の足元にアベリアとかの灌木を植えることが多いが、ゴチャゴチャして逆に自転車を置きやすくなったり、狭く感じる要因になっている。足元をすっきりきれいにみせて空間を広くみせる設えが必要。それを地元や企業の協力のもとに進めていけば、少ない予算でも空間をうまく使える。また、京急蒲田駅西口再開発などが出てくるともう一段上の賃料を狙えるビルが出てくる。それを踏まえて、定住を主とするのかオフィス系も志向するのかを将来像として見極めたほうが良い。例えば、秋葉原は賃料が安いこともあり、ITが集まってきている。オフィス系を志向する場合は、賃料水準とターゲットを見極めると今後の蒲田らしさも見えてくるのではないか。他地域の人から見て蒲田のイメージが薄い。蒲田らしさ、蒲田ブランドを共有できると良い。

(屋井委員) 交通の観点からはもう少し広い範囲で捉える必要がある。羽田国際化の中でポテンシャルは高いはずだが姿がみえない。このエリアだけを考えると東西のアクセシビリティをどのように確保するのか、駅前のターミナル機能をどうやって再整備してい

くのかは議論する機会が今後もあると思うが、このエリア内では歩行者中心の回遊軸をもっと掘り下げて議論すべきだと思う。商店街の快適性もあるが、車との共存も含めて議論を深めていくべきだと思う。

(中井委員長) 3つの目標について、来街者、住民、空間という視点で設定することは良いが、それぞれの中身を詰めていく必要がある。フレーズはストレートな物言いをしてみて、地元と議論を始めるという意見が多かった。目標2は住み続けることについて、色々な方向性の議論が出た。この場で全てを決めるものではないが、実態は把握しておく必要があるので引き続き作業をお願いしたい。目標3は、自然については緑化や呑川をどうするのか、人については歩く環境などをどうするのかをもう少し詰めて議論をして、方向性を絞り込んでいってもらえば良いと思う。基本理念については、何を言っているのかよくわからない。解決すべき課題と具体的な方針を繋ぐ部分なので、今の3つの目標をもう少し議論を深めた上で、両者をうまく接着させるフレーズをつくりあげて欲しい。

(事務局) 第2回は5月19日(火)18時から201、202、203会議室を予定している。開催日が近くなったら大田区報及びホームページでお知らせする予定。

(注1) 最寄品(もよりひん) : 日常的に高頻度で購入される商品のこと。野菜、魚、肉等の食料品や日用雑貨品など。

○当日傍聴の方からのご意見(アンケートまとめ)

キーワード	ご意見
基本理念 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 現在の基本理念はタイムスケジュールの中で理想的過ぎる。 他の周辺都市との違いが見えない。 100年先のまちのイメージを考えるべき。
JR蒲田駅 東西交流	<ul style="list-style-type: none"> JRに分断されている東西交流は永年の課題。 駅ビルの改築によって、東西分断の70%は解決できる。
京急連立	<ul style="list-style-type: none"> 京急連立完了後の、バス路線を含んだ交通インフラの変化を想定した計画づくりが必要
呑川	<ul style="list-style-type: none"> 東京都まかせではなく、呑川に対する区としての基本的な考え方を持つべき。
緑の拠点	<ul style="list-style-type: none"> アプリコの隣の本蒲田公園も緑の拠点。
放置自転車	<ul style="list-style-type: none"> 放置自転車は鉄道事業者、他の事業者の取り組みによって50%は解決できる。
サイン計画	<ul style="list-style-type: none"> 弱視者の声を聞いてサイン計画を行ってほしい。 JR蒲田から京急蒲田へ繋がる道を、わかりやすく整備してほしい。
まちの歴史	<ul style="list-style-type: none"> 終戦後の商店街の焼け跡からの歴史を踏まえて開発するべき。 蒲田は庶民のまち。
まちの意見	<ul style="list-style-type: none"> まちの意見を取り入れて、大田区と一緒に良いまちにしていきたい。 まちの意見を聞いて、継続した取り組みを行ってほしい。